

## 【熊本県賞】

### 「水の継承」

熊本県 真和中学校 2年

吉崎 三稀 よしざき みつき

私たちは、身近にある水を当たり前のように使っていますが、水がない世界を想像すると、生きることすらできなくなるということを忘れてはいけません。水は人間だけでなく動物、植物全ての命にとって必要不可欠なものであり、人間が持っている最高の宝物の一つです。

私は、水の大切さを感じる瞬間について書きたいと思います。私は数年前の夏に、家族やいとこ、祖父母とキャンプに行ったことがあります。目的の地は、透き通った湖と周りを取り囲む緑豊かな森の中に設置されたキャンプ場だと聞きました。しかし、到着してみると、湖には水が全くありませんでした。その施設の人に聞いた話によると、数か月前から降雨がなく、湖は枯れてしまったとのことでした。

私は、この事実を受け止め、思い切って、水を少なく使うことに決めました。シャワーではなく、海や川で水浴びをし、食器の洗い物にも少量の水しか使いませんでした。また、飲み物の材料には、ボトルで持っている水ではなく、豆乳やジュースなどを使用しました。それ以降のキャンプでも節水に取り組みました。また、家でも節水に取り組みました。その中で、私が感じた最も大きな「水の大切さ」は、飲み水の不足でした。

現実的には、私たちは水を常に無限に使えるわけではありません。今まで当たり前のように使っていた水が、いつ、どのような形で不足してしまうのかわからないということです。今までのキャンプ、日常生活での経験を通して、「水」は、私たちにとって最も貴重なものと改めて気づかされました。

また、水の大切さを感じる場面は、たくさんあると思います。例えば、使った水を浄水して、また使うや、当たり前のことですが、必要最低限の水を使うなどすることができません。少しずつですが、水を大切に使う習慣が身につけてきました。

また、キャンプに行っている際に、ラジオで、水についての世界問題について話していました。世界には、水を飲むことが困難な人がいることを聞き、びっくりしました。そして、私は、自分が、水を飲むことが困難だったらどうなっているのだろうと考えると、色々な病気になったりしているのかなと思いました。

二十五年の国連サミットで採択された持続可能な開発目標(SDGs)の中の目標六は、「安全な水とトイレを世界中に」と掲げられている。水は限りある資源であると同時に、無限の可能性を秘めています。多くの命を守るために、世界は大きく動き始めました。

今、私にできることは、行動を起こすこと。水を流しっぱなしにしないことや、募金することは、今すぐできることです。また、水の問題について自分の事として考えてみることも大切です。

私たちが、今後も快適な生活を送るためには、やはり「水」が不可欠です。しかし、私たちが目にすることができる水は、わずかなものに限られます。地下水や海水の一部を浄化して、使用するという方法もありますが、大量の水を使う農業や工業もまた存在しています。私たちは、一人ひとりが、水を大切に使うことで、地球の未来に貢献することができます。

「水がなければ、命はつながりません。」という言葉があります。冒頭でも書きましたが、本当に水がない世界を想像すると、私たちは生きることができなくなります。私たちは、身近な水を大切に使い、未来の世代に引き継げるような「水の継承」につながるような行動を心がけることが大切です。